

創刊号

# みなと新聞

YATSUSHIRO

## ご存知ですか？「八代港」は 県内最大の貿易港です。

「みなと」という言葉は「水の門」の意味です。みなとを表わすのに、今日では港または港湾という文字が使用されています。「港」は水と村里の通路を表わす「巷」を合わせた文字で、水上の通路を意味します。古代文明の多くが、大きな川の流域で発展を遂げてきたことからわかるように、人の生活に水はかせません。

八代は「球磨川のたまもの」といわれるように、球磨川の水の恩恵を受けてきました。かつて八代城の城下町として発展した八代は、九州初のセメント工場の立地をはじめ製紙、パルプ、繊維、酒造など大型工場の進出に伴い、球磨川河口から八代海にかけて本格的な港湾整備が行われました。

現在八代港は、外港地区(外国貿易中心)、内港地区(国内貿易中心)、大島地区(石油関係専用)、蛇籠地区(漁船など小型船係留)の4地区で構成され、県下最大の港湾施設と貨物取扱高を有する熊本県南部の産業活動の拠点であり、30,000トン級の船舶が接岸可能なマイナス12メートル岸壁2バースを有する県下最大の国際貿易港へと成長しています。

### INFORMATION

#### SPECIAL INFORMATION

##### 豪華客船「飛鳥」入港

10月11日(金)・15日(火)・11月12日(火)

「飛鳥」(郵船クルーズ、約29,000トン)は、まさに「洋上に浮かぶホテル」。日本最大、最豪華をうたい文句に1991年にデビューしました。11/12は抽選で船内見学ができます。(詳しくは「広報やつしろ10/15号」をご覧ください。)



こんにちは!  
八代港港湾振興協会です。

八代港港湾振興協会は、市内民間企業、海事官公庁及び貿易関係機関を中心に構成され、現在の会員数は121団体です。平成6年の発足以来、八代港の整備及び利用の促進はもとより、美しく賑わいのある港づくりへ向けて日々活動しています。

海の日イベント  
「みなと八代フェスティバル」  
は今年も大盛況!

#### 「2002みなと八代 フェスティバル」開催

7月20日(土)・21日(日) 来場者数/約38000名  
ハーバーナイトシアター「少林サッカー」上映。護国艦「あさゆき」体験航海、艦内見学や忍風戦隊ハリケンジャーショーなど盛りだくさんの内容で大好評を得ました。



#### 豪華客船「ふじ丸」入港

7月29日(月) 来場者数/約1000名  
「ふじ丸」(日本チャータークルーズ約23000トン)が八代港に入港。八代市と合同で、入港歓迎セレモニーを行いました。



# “みなと”は、可能性が いっぱい!



## 未来のウォーターフロント 「ニュー加賀島」

(平成7年港湾計画改訂当時のイメージ図です。)

海辺の魅力を  
活かした街づくりが  
検討されています。



### みなとの機能と施設

「みなと」は、貨物船が接岸してコンテナや砂利・木材などを扱う岸壁の他に、環境の保全、生活の安全など多くの分野での役割も果たしています。ニュー加賀島の広さは約80ha(東京ドーム16個分)。流通だけを考えた港ではなく、旅客船の棧橋などの係留施設や親水緑地など、地域に親しまれ、地域観光の拠点としての空間を備えた港の展開が計画されています。平成16年末に予定されている「八代港港湾計画改訂」を目前に、これからの加賀島地区の未来に注目しましょう。

「ニュー加賀島」は、大型船の航路(船の道)泊地(停泊するところ)をつくる際に生じた土砂の処分場です。昭和61年度より土砂処分場の建設に着手し、平成2年度に土砂処分場Ⅰ工区の埋立護岸が完成、航路泊地の浚渫土砂の受入が開始されました。さらに、平成6年3月には土砂処分場Ⅱ工区の埋立外周護岸が完成、同年10月より航路泊地及び航路等の浚渫土砂の受入を開始しました。現在、土砂処分場Ⅲ工区まで浚渫土の受け入れをほぼ完了しています。

土砂処分場平面図



昭和62年当時の八代港。工事着工前。



護岸の基礎工がスタート。建築物の重量を支え、安定させるために設ける建物の最下部の構造、本体の土台となる部分の石を捨てている。



本体コンクリート型枠組立設置状況。本体のコンクリートを所定の形に打ち込むための仮設の枠を設置している。



裏込石投入状況。本体の裏側に(処分場内側)に石を詰めている。



土砂処分場内掘土状況(航路を掘りおろした土砂を処分場内に捨てているところ。)

写真提供:国土交通省九州地方整備局八代港事務所

## 「みなと新聞yatsushiro」についてのご意見、ご感想を募集しています。

同時に、八代港港湾計画改訂についてのご質問やご意見もお待ちしております。どんどんお寄せください。

八代港港湾振興協会事務局(八代市役所企業振興課内)  
〒866-8601 八代市松江城町1-25  
TEL・FAX/43-7855 E-mail/yport@ya.magma.ne.jp

※次回の「みなと新聞yatsushiro」は、平成15年3月頃の発行を予定しています。





八代港に着岸し、荷役中の韓国のコンテナ船

# 魔法の箱

# コンテナ

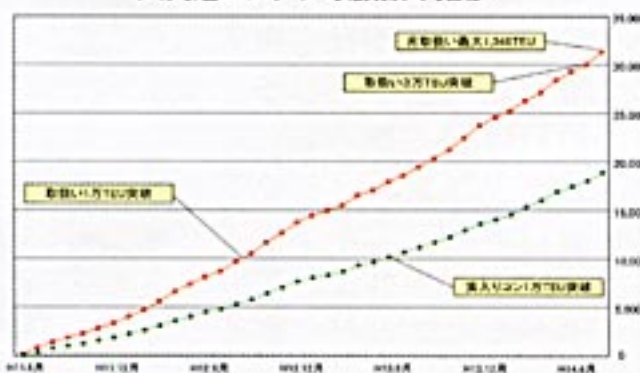


ストラドルキャリア



ガントリークレーン(後方)とストラドルキャリア

## 八代港コンテナ取扱数の推移



このコンテナ、小型のJRCコンテナでさえ、内容量は18m、長さ約3.6mで、4トントラック1台分位の貨物を運ぶ事が出来ます。海外貿易などに使用されている国際コンテナになると、さらに大型のものが使用されます。現在は、長さが20フィート(約6m)あるいは40フィート(約12m)のものが主流とされています。

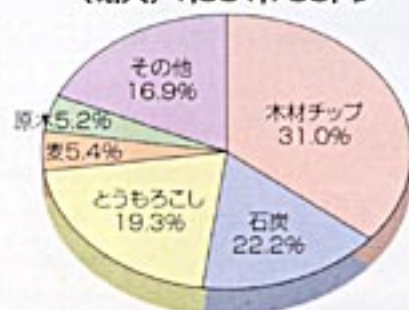
八代港では、平成11年に県内初となるコンテナ国際定期航路が開通されたから、年々取扱数が増加。平成12年には1万TEUを達成し、平成14年7月には3万TEUを突破しました。※TEU/20フィートコンテナに換算したコンテナ個数のこと。

## アジアを中心としたコンテナ貨物が急増

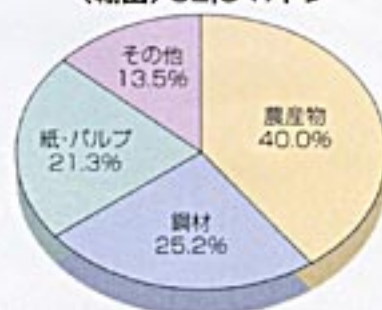
八代港のコンテナ取扱数が3万TEUを突破しました!

## 平成13年八代港取扱い貨物内訳

〈輸入〉1,531,753トン



〈輸出〉62,647トン



## 八代港港湾振興協会広報誌「みなと新聞」創刊に寄せて

本市には、熊本県最大の国際貿易港「八代港」があります。市民の皆様は、八代港の変遷と現況を知っていただき、そして、未来の姿についても関心を深めていただくことが八代港における最大の振興策になります。「港はよくわからない」、「港には関心、関係がない」とおっしゃる方も多いのではないかと思います。しかし、私たちの生活と深い関係があり、調いや楽しさをもたらしてくれるのが港なのです。

このような趣旨によりまして、今般、「みなと新聞」を創刊された貴協会に対し、心より敬意を表しますとともに、市民の皆様にも「八代港」という財産を十分に享受していただけるよう取組んでまいります。



八代市長(特別会員) 中島隆利

## 「八代港港湾振興協会」では、会員を募集しています。

現在の会員数は、121団体。八代港は九州の中心に位置し、九州縦貫自動車道八代ICに直結、南九州の物流拠点として今後ますます発展が見込まれます。その八代港を美しく、賑わいのある港にしようとする協会の活動に賛同する機関、企業及び団体等の新規入会を随時募集しています。詳しくは、事務局へお問い合わせ下さい。

## 八代港港湾振興協会の主な事業

	期 日	事 業 名
平成13年度	平成13年4月18日(木)	会報「みなとやつしろ」第12号発行
	6月26日(火)	長崎市及び長崎港活性化センター八代港視察対応
	7月16日(月)	九州地方整備局へ「八代港に関する要望書」を提出
	7月22日(日)	2001みなと八代フェスティバル協賛
	8月25日(土)	八代港クリーン作戦と八代海サンセットクルーズ
	11月21日(水)	会報「みなとやつしろ」第13号発行
	11月27日(火)	「みんなでみなと」フォーラムin八代を開催
	12月7日(金)	八代港利用に関するアンケート調査実施
平成14年度	平成14年6月3日(月)	通常総会
	7月4日(木)	熊本県へ「八代港に関する要望書」を提出
	7月15日(月)	九州地方整備局へ「八代港に関する要望書」を提出
	7月20日(土)~21日(日)	2002みなと八代フェスティバル協賛
	7月29日(月)	大型客船「ふじ丸」入港歓迎式
	10月11日(金)・15日(火)	大型客船「飛鳥」入港歓迎式
	10月15日(火)	「みなと新聞yatsushiro」創刊号発行
	11月12日(火)	大型客船「飛鳥」入港
	11月19日(火)・20(水)	韓国船会社表敬訪問
	11月下旬	港湾経営セミナー開催
	11月30日(土)・12月1日(日)	「みなとフェア(仮称)」開催
12月頃(予定)	ホームページ開設	
平成15年3月	「みなと新聞yatsushiro」第2号発行	

# 八代 みなと物語 vol.1

蛇籠港



昭和28年頃の蛇籠港の船



平成5年頃



現在の工事風景



昭和28年頃当時は人と物で賑わっていた。

蛇籠港は、球磨川支流の前川の右岸に位置し、現内港から約1km上流の蛇籠町にあります。江戸中期、八代城主松井氏が造った港で、当時は沖番所または塩屋番所と呼ばれていました。中世以降江戸時代まで、徳川の津を中心に栄えましたが、明治になってからは蛇籠港に水深1.5m、長さ86mの物揚場が修築され、物資の輸送と天草方面への交通の基地となりました。明治23年には、隣接する建馬町に日本セメント八代工場が竣工したことにより海運が盛んとなり、天草との商取引、沿岸漁業者の漁港とあいまって隆盛を極めます。戦後は、八代港の拡張・整備が進み、定期客船着船場が今の八代港(内港)に移ったため衰退し、蛇籠港は静かな漁港となりました。現在、前川の水際における多様な生態系の保全・育成による自然学習の場として、朝市やイベントを通じた地域の交流拠点としての空間を整備するべく、改修工事が進んでいます。蛇籠港は歴史ある港です。改修によって、ただ堤防を造るだけでなく、市民の憩いの場としての復興が多くの人々に望まれています。

平成の蛇籠港は、  
今、生まれ変わろうとしています。

イメージバース

写真提供:八代市・熊本県八代地域振興局・八代漁業協同組合

みなとクイズ

Q&A

Q 熊本県の港の数は、  
いくつでしょう?

A 54港です。なんと全国5位なの  
です!その中でも八代港は熊本県  
最大の港です。

「うみの知識、  
みなとの知識」

vol.1 海って塩辛い!



海で泳いだことがある人は、海の水が塩辛いことを知っていますね。海水にはナトリウムや塩素を含んでいて、塩辛さの原因になっています。もし人間が漂流をして海水を飲みつづけると、血液中の塩分が濃くなり、障害を起してしまいます。魚はどうしているのでしょうか? 魚は海水を飲んでも、エラが塩分を吐き出す役目をしています。海鳥はどうでしょうか? 多くの鳥は目と鼻の間に塩腺があり、ここから海水より濃い液を出しています。環境に適応するように、うまくできていますね。

編集後記

港湾計画改訂を目前に控えて、加賀島地区の特集を組みました。いま、県では新しく誕生するこの土地の利用方法について、広く市民の皆様の意見を収集しています。広場、施設、いろんな夢や希望のすべてが叶うことは無理だけど、私たちに優しく心地よい空間になることは間違いないでしょう。すでに改修が始まっている「蛇籠港」は、私が幼い頃父と一緒にぼんぼん船で釣りに出かけていたとても思い出深い港です。時代とともに姿を変え、出世魚のような港になあと思ひ、「みなと物語」の一話目にとりあげました。八代の港はおもしろいですよ。次回からは、みなと新聞を支えていただいている協会会員の方々の紹介も掲載していきたいと思ひます。いろんな企業や団体の方がいらっしゃいます。お楽しみに。(中山)